

さくらまくら

さくらの まくらで はなちょうちん
さくらの まくらで はなちょうちん

春眠 暁を覚えず 遠吠えする春雷
薄氷、融解して流るる音 滔々と
温み 身を包み うとうと
淡い匂いに酔い 夢現のあわひ彷徨い
出逢い 見初めし 面差し 染まる頬
映す花の化粧 そやすホーホケキョ

幽けき世 に景気良く咲き 結局 謙虚に
散りぬるを 風前の塵屑と 知りつつも
儂ないが故美しく 甘やかな夢慈しむ
言い尽くし切れぬ慕いを根の下に
地に積もる花 褥に 一眠り

さくらの まくらで はなちょうちん
さくらの まくらで はなちょうちん

春宵 一刻値千金
可惜 急くやうな 巫山の夢
努々忘るまじと 眦を決し
間近にまじまじ見る 彼の眼差し
然れど 醒め戸惑う 擬かしくも
搔き曇り 見透かせぬ御姿
暈すは 春の霞か 掛かる御簾か
聞きぬ絹の声も消ゆ後朝

散る、散る 花が落ちる
去る春 引き留めるやうに
うつら、うつら 夢に落ちる
一縷心寄せ また一眠り

散る、散る 花が落ちる
去る春 引き留めるやうに
うつら、うつら 夢に落ちる
一縷心寄せ また一眠り

さくらの まくらで はなちょうちん
さくらの まくらで はなちょうちん
さくらの まくらで はなちょうちん

瞼の 裡では 花も落ちぬと

さくらの まくらで はなちょうちん
さくらの まくらで はなちょうちん
さくらの まくらで はなちょうちん
さくらの まくらで はなちょうちん